

令和元年度決算の概況

(1) 総括事項

令和元年度においては、「岡山市下水道事業経営計画2016」に基づき、下水道事業の持続的な運営を図りながら、市民の生活環境や水環境の改善を図り、快適で安全なまちづくりに貢献しました。

特に浸水対策については平成30年7月豪雨による浸水被害を踏まえ、「岡山市浸水対策の推進に関する条例」に基づき下水道や河川のハード整備を進めるとともに、事業者への開発行為等に伴う雨水流出抑制施設設置の助成、さらに平成31年4月より創設した止水板設置補助制度などにより、市民、事業者と連携した総合的な浸水対策を進めています。

今後も引き続き、浸水被害の大きかった地区への重点的な浸水対策に取り組むとともに、未普及対策や耐震・長寿命化対策などについても効率的、計画的に実施します。

ア 下水道による汚水処理の状況

事 項	令和元年度	平成30年度	増 減	対前年度比 (%)
処理区域内人口 (人)	485,720	483,830	1,890	100.4%
汚水処理戸数 (戸)	160,231	158,393	1,838	101.2%
年間有収水量 (千 m^3)	52,908	52,579	329	100.6%
普及率 (%) ※1	67.6	67.4	0.2	—

※1 以外は農業集落排水事業を含む。

イ 建設改良事業

a 浸水対策

浸水被害の軽減を図るため、浦安排水区の雨水渠整備に継続的に取り組み、浦安11号幹線雨水管築造(第1期工事)に着手するとともに、芳田排水区の取水ゲートの増設を行いました。さらに、今保排水区のポンプ場の令和5年度供用開始に向け、基本設計を完了し詳細設計に着手しました。

また、豪雨に対する初期対応の迅速化を図るため、津島地区等のゲートの遠隔操作化に継続的に取り組みました。

b 未普及対策

笹ヶ瀬左岸幹線及び、庭瀬・妹尾・撫川・北方・横井上・檜津地区など旭川以西の児島湖流域下水道関連処理区などの整備や、江並・今在家・東平島・神下・乙多見・西大寺射越地区など旭川以東の岡東及び吉井川処理区などの整備に取り組みました。また、高松・吉備津・牟佐の新規地区の基本設計を実施しました。

c 耐震化・長寿命化対策

国の長寿命化支援制度を活用した岡東浄化センター、旭西排水センター及び笹ヶ瀬ポンプ場、岡東ポンプ場などの改築更新に取り組みました。

また、老朽化した管きよの更生工事、重要な幹線管きよの耐震診断に取り組みました。

ウ 維持管理

本年度は約6,073万 m^3 の汚水を処理するとともに、市街地の雨水を排除しました。処理場やポンプ場においては日常の管理の中でコストを意識した運転を行うとともに、点検や整備、修繕を計画的に行いました。また、管きよについても計画的に点検調査を行うとともに、清掃や修繕を行いました。

エ その他の取り組み

大規模地震・津波を想定した5回目の下水道BCP訓練を令和2年1月に実施し、本年度から新たに導入したテレビ会議システムを活用し、出先機関との連絡体制の確認、被災施設の調査訓練を行いました。

また、下水道のPR活動として、昨年度から実施している「マンホールスタンプラリー」に新たにデザインマンホールを追加しました。また、無料通信アプリオリジナルスタンプ「マンホールから飛び出した桃太郎」が「GKP（下水道広報プラットフォーム）広報大賞」グランプリを受賞し、職員の士気向上につながりました。

オ 財政状況

本年度の財政状況については、収益的収支では、事業収益19,193,403千円に対し、事業費用19,193,403千円で、この結果、収支差引0円となりました。

次に、資本的収支では、収入額22,789,193千円から翌年度へ繰り越される支出の財源に充当する額311,260千円を除くと、当年度の収入が22,477,933千円、これに対する支出額は29,320,542千円であり、収支差引6,842,609千円の不足額は、内部留保資金などで補てんしました。

以下のグラフは下水道事業の決算状況を性質別に示したものです。

